

# ホタル学校だより

## 迫力の太鼓にホタルもびっくり!? 鳥川ホタルまつりイベントを開催



平成 28 年 6 月 4 日（土）、岡崎市ホタル学校で「鳥川ホタルまつりイベント」が開催されました。鳥川ホタル保存会が毎年開催しているこの人気イベントで今年も 1,400 人ほどが集まり大変な賑わいを見せました。



研究発表する原田君・杉本君

冒頭で、昨年度のホタルマスターファミリー講座に参加し、ホタルの自由研究を行った原田裕貴君と杉本翼君に研究の成果を発表してもらいました。原田君はかつてホタルの発生地として有名だった美合地区の環境の変化を昔の住宅地図を元に研究しました。また、杉本君は豊橋市内の複数の川で比較調査を行い、ホタルの発生に適した環境を研究しました。

また、今年は城西高校の和太鼓部「彩輝(さいき)」による太鼓の演奏です。大胆なパフォーマンスと迫力ある音には鳥川のホタルたちもびっくりしていたかもしれません。最後には恒例の“猪汁”の振る舞いもあり、長蛇の列となりました。

長年にわたる地元皆様の努力の結果、鳥川のホタルはとて有名になり、観賞に来る方は年々増えてきています。しかし、一方で川に向かってライトを照らしたり土手を踏み荒らしたりするようなホタルに悪影響な行為も見受けられます。この素晴らしいホタルの舞を次の世代に引き継いでいくために、私たち一人ひとりのモラルある行動が求められています。



猪汁の振る舞いは毎年大人気！

### ホタル学校歳時記（No. 9）

## ホタルって害虫？ 益虫？どっち？

昭和 10 年ごろ、神田左京博士と原 志免太郎医学博士らが、ゲンジボタルが幼虫時代に宮入貝（カワニナの間）を食べるかどうかに関して激しい論争をしました。

その背景はこうです。日本の湿田地帯では風土病の日本充血吸虫による被害で苦しんでいたのですが、この寄生虫の卵は宮入貝の体の中にいて、成長して人間に寄生して害を与えていたのです。

「ゲンジボタルの幼虫が宮入貝を食べれば寄生虫が無くなるのでは？」と原博士は考え、研究を進めました。これは現代の生物農薬の考え方で、現在ビニールハウスや温室でハチを使い害虫を食べさせているのと同じ手法です。



カワニナを食べる幼虫

原博士は研究を進め、ヘイケボタルの幼虫やゲンジボタルの幼虫が宮入貝を食べて成長する事を発見されたのです。

以前、全国ホタル研究会の九州大会（昭和 48 年／福岡県柳川市）でお会いした原博士は「結論の発表の前年に神田博士が亡くなられたため、会談ができなくて残念だった」と語っておられました。91 歳という高齢にも関わらず、元気に大会に参加された姿を今でも思い出します。

（ホタル学校名誉校長・古田忠久）



# ホタルとヒトの命の源「森林」について学ぼう ホタル学校2階展示リニューアル



## 森の働きについて詳しく学べるパネルを設置

ホタル学校2階の「ホタル教室3」の展示物を、森林について学べるものにリニューアルしました。森林の持つ様々な働きや日本の森林環境の変化と課題など、様々な視点から日本の森や身近な里山について学べる内容となっています。腐葉土と普通の砂で保水力がどれくらい違うのかを実験する装置も設置しました。

水の源である森林は“ホタル”にとっても私たち人間にとってもとても大切な存在です。森の大切さと現状について学び、どうしてもしたら日本の森を守っていくことができるかを考えましょう！

# 今年のホタルはどうだった？ 2016年のホタル飛翔数速報！

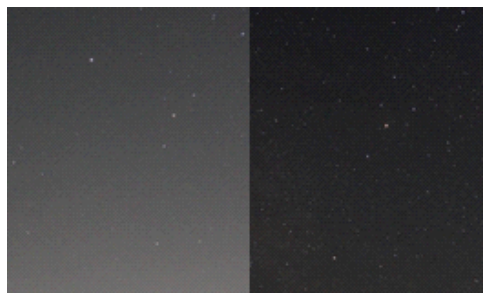
鳥川ホタルの里では、毎年地元の「鳥川ホタル保存会」により、ホタルシーズン中の飛翔数を毎日記録しています。2016年の測定結果を過去の結果と比較してみましょう。

	最大飛翔数	ピーク日
2016年	1,403 匹※	6月10日
2015年	1,445 匹	6月7日
2014年	1,256 匹	6月16日
2013年	1,001 匹	6月16日
2012年	969 匹	6月14日

※2016年より測定区間が増え、その区間分を差し引くと「1,291 匹」となる。

飛翔数はここ数年増加傾向にあり、飛翔のピークは一週間ほど早まってきていることが分かります。こうした記録は環境の変化を示す貴重なデータであり、鳥川ホタル保存会の皆様による地道な調査活動の成果です。

# ホタルの舞う夜空にも 人の暮らしの影響が？



この二枚の写真は“さそり座”のアンタレス付近を撮ったものです。左はホタル学校、右は茶臼山で撮りました。空の暗さが違います。星が綺麗に見えると思った鳥川でも一山越えれば市街地が広がりこんなに「光害」が有るのです。原因は、過剰な照明が大気中の粒子に乱反射して夜空の背景を明るくしているからです。生物の体内時計を狂わす環境破壊の一つです。CO2削減のためにも過剰な照明は控え、いつまでも綺麗な星空を楽しみたいものです。(ホタル学校・神谷)

# ホタルと共に育つ「美合小学校」～マイホタル活動～

岡崎市立美合小学校では、毎年4年生が環境学習の一環としてゲンジボタルの飼育を行っています。この学習を通して、生物愛護の精神や環境保全・環境美化の大切さについて学びます。

ゲンジボタルを育てるにあたり、まずはどのような場所で生息できるのか？どんなものを食べるのか？などの生態について、本やパソコンを使って調べ学習を行いました。その後、「マイホタル」として、一人1匹ずつ幼虫を育て始め、大きさや色について観察したり水質管理を行ったりします。

児童は、エサであるカワニナを与えたり水あげをしたりしながらホタルの成長について観察し、「脱皮していた。嬉しい！」、「大きくなるうちに黒くなってきた！」などと成長の様子をワークシートにまとめました。3月には約半年かけて大切に育てたゲンジボタルの幼虫を校内にあるビオトープに放流し、学習のまとめとしました。

(岡崎市立美合小学校教諭・西山)



## 一人が1匹を育てる「マイホタル活動」

[ホタル学校に関する情報はホームページ・ブログをご覧ください！]

★ホームページ…[http://www.morinoeki.jp/hotaru\\_gakkou/index.html](http://www.morinoeki.jp/hotaru_gakkou/index.html)

★水とみどりの森の駅ブログ…<http://sizentaikennomori.boon-log.com>